広報 かじき

全家庭に、もれなく配布

第205号
47.12.10発行
発行 鹿児島県姶良郡加治木町役場
編集 総務課文書係
印刷 吉屋印刷所

としの暮れ

密柑むき峙の茶屋の日の座敷　牧笛郎

▽…なにか、あっという間に年の暮れがやってきたような感じ。火の気が恋しく、野外の景色はわびしさをまして、あわただしい歳末の気分がただよってきます。

▽…十二月は一年のしめくくりと、新しい年を迎える準備をふくめて、なんとなく忙しい月。それだけに飲酒の機会もふえ、あわただしさや、あせりで交通事故も多くなる時期、気をつけようー。

▽…友情を示し、旧交を懐しむ年賀状は遅くとも二十二日までにあて名と郵便番号は、はっきりとことし最後の広報紙をお届けします。話題やニュースのご提供に感謝。よい年をお迎えください。

昭和47年 12月号

みかんの収穫（永原で）

■ メモ　人口／19.341　男／9.137　女／10.204　世帯／6,075　(11月1日現在)

四十六年度決算の認定

町立加治木幼稚園の園舎建設など決める

臨時・町議会

臨時第五回の町議会は、さる十一月二十日から十二月二日までの十三日間、町議事堂で開かれ、衆議選の選挙費用、専決処分の報告や四十六年度の一般会計と特別会計の決算認定、町立加治木幼稚園舎の建設費の補正予算などを審議し、それぞれ可決、承認しました

衆議院議員選挙費に百十七万四千円

専決処分で報告された一般会計の補正予算は、十二月十日執行の衆議院議員選挙の費用として百十七万四千円を予算追加したものです。この財源には県からの支出金（選挙費委託金）があてられます

町立加治木幼稚園の設置条例一部改正で本決まり

町立加治木幼稚園の設置が、いよいよ実現することとなりましたこのため町では「加治木町立学校の設置に関する条例」のなかに新幼稚園の名称と所在地を加え、正式に設置を決めたものです。

幼稚園舎の建設費に二千三百五十九万円

町立加治木幼稚園の設置に伴う同幼稚園園舎（鉄筋コンクリート造り二階建）の建設費などの予算を追加するもので二千三百五十九万三千円が計上されました。

この建設費の財源には、町税の三百三十万円や国と県からの補助（支出金）一千四百二十二万二千円、それに起債（国などからの借金）六百万円などがあてられます

46年度の一般・国保決算内容や成果など審議承認

昭和四十六年度の一般会計と国民健康保険特別会計の決算は、町監査委員の監査意見をそえて今議会に提出されました。

町議会では決算特別委員会を設け、予算執行の細部にわたって監査意見をもとに内容、成果などについて十分な審議にあたりました

この結果、二つの決算は適格な運用と目的にそった予算執行がなされ、いずれも正当なものであるとして、本会議で承認されました

西別府線の道路改良工事岩沢組が一千二百万円で

西別府線の道路改良工事（延長五百二十四メートル）は、一千二百六十万円で岩沢組が落札し、工事請負契約が締結したので議会の承認を求めるものです。工事完成は来春三月末日の予定です。

社会保険庁長官の表彰　端山納付組合

十一月一日に鹿児島市の南国日生ビルで開かれた県国民年金大会で、国民年金事業の優良団体等の表彰が行なわれ、当町から次の納付組合が表彰されました。

▽社会保険庁長官表彰

端山納付組合（代表高田精二）

監査意見書（要旨）

昭和四十六年度における決算の特徴は、実質収支では二千六百三万六千円の黒字を計上、大幅な上昇を示しているものの、事業の未完成による財源のとりくずしが行なわれたこと。ならびに財政調整基金のとりくずしが行なわれ、実質単年度収支において赤字を示していることである。

□歳入（収入）

本年度における歳入総決算額は七億五千五百六十七万二千円で、前年度にくらべ約四〇パーセントの伸びとなっている。おもな歳入増は、給与改訂などによる地方交付税および町税、国県支出金と繰越金、諸収入、町債などの増加によるものである

□歳出（支出）

歳出の決算総額は七億一千六百四十四万二千円で、前年度にくらべて三七・五パーセントの増となっている。

▽義務的経費（人件費・扶助費公債費）は、前年度に比して四千八百八十二万九千円、約二三・一パーセントの増となっている。

▽投資的経費（普通建設事業費や災害復旧事業費・失業対策事業費）のうち、普通建設事業費の町財政に占める比重は、年ごとに増大しているが、前年度決算総額において占める割合いは二九・六パーセントであり、本年度は三三・四パーセントに増加している。

本年度の主な事業は、総合グラウンド敷地購入ならびに土地造成事業、錦江小付属幼稚園建設、柁城小特別教室、公営住宅建設、町道新設改良事業などがあげられる

このほか、継続的事業となっている災害復旧とは別に、本年度は十九号台風の集中豪雨によって発生した災害復旧事業が、年度末になっての事業指令で、担当職員は多忙であったと思考するが、この事業が年度内に完了したことに対し、敬意を表する次第である。

今後とも、経費の明確なは握に留意され、適切な事業の運営を希望する。

▽補助費等は、前年度に比し八一・五パーセントの増額となっているが、これは新たに消防費の中の常備消防費の負担金として姶良郡西部消防組合の発足に伴う分賦金二千七百七万円が計上されたものが主なもので、その他に火葬場費の負担金百十六万七千円も新規に決算がなされている。

昭和四十六年度における一般会計、国民健康保険特別会計の歳入歳出の決算の会計経理は適正に処理され、総体的に予算の目的にそった効率的な運用執行がなされており、各関係者の努力に対して敬意を表する。細部にわたっての指摘、留意事項にしたがい検討、改善されたい。

今後いっそう大型化する行財政の規模に対し、より健全な運営のため総合性、計画性を基盤に住民の福祉増進をはかり、さらに積極的に健全な財政と経費の十分な効果をあげるよう努力されんことを望み、昭和四十六年度の決算の審査意見とする。

年末は交通事故の発生期です

年末には、人や車の動きが激しく、それに忘年会やクリスマスなどで酒を飲む機会がふえてきますそれに伴って年末の気分もあわただしくなり、毎年多くの交通事故が起こっています。

まず年末に多いのが①速度の出し過ぎによる事故　②無理な追越しによる事故　③飲酒運転による事故などです。

年末を無事故で送り、明るい正月を迎えるために、運転者も歩行者も次のことを守ってください。

安全なスピードで走ろう

仕事が忙しくても、道が遠くても決められたスピードは必ず守ること。また、道路の状況、交通の状況によって、安全なスピードで運転すること。

歩行者に注意しよう

買物客で混雑しているところを通るときには、歩行者との間に安全な間隔をとり、または徐行してとっさのときに避けられるような運転をすること。

無理な追越し事故のもと

年末は忙しいことばかりで、つい追越しをしたくなるのが人の常そこが危険の落し穴です。遠いように見えても、もうそこには対向車が来ている場合があるので、無理な追越しは絶対にしないこと。

アルコールは絶対に禁物

飲酒運転は絶対にしないこと。また、忘年会に行くときは車を運転して行かないこと。

貨物の積載は確実に

年末は貨物輸送の量も多くなります。貨物を積むときは、荷台にしっかりと、くくりつけること。

駐車違反は禁物

駐車禁止の道路に駐車したり、道路を車庫がわりに使うのは絶対にやめること。

横断は左右の安全確認

道路を横断するときは必ずいったん停車して、左右の安全確認をすること。

幼児は右側に歩かせる

幼児をつれて買物に出かけるときは、歩道のない道路では、幼児を右側にして右手で幼児の左手をしっかり引くこと。

子どもに愛の一声を

道路であぶない遊びをしているこどもを見かけたら、よそのこどもであっても道路で遊ばないように「一声」かけよう。

明るい国づくり
豊かな町づくりに
役立っている
郵便貯金。

年末年始の郵便貯金

増強運動月間です。

人権擁護委員にご相談ください

十二月四日から十日までは「人権週間」です。

〃明るい近隣関係の確立〃が重点目標とされています。

最近の人権侵犯事件の傾向をみると騒音、悪臭、震動など、いわゆる小公害を含め近所・隣りの関係をめぐって相手方の立場を考えずに、自分の権利のみを主張し、そのためつまらぬ紛争をひき起こしている例が少なくありません。

隣り近所のつきあいのうえで起こるトラブルはほんとうにいやなものです。こんな問題で悩んでいるかたは法務局や人権擁護委員にご相談ください。

町内仮屋町の日野良兼さんが当町の人権擁護委員です。

家庭をあたたかく社会に思いやりを

冬の青少年を守る運動
12月15日←→1月15日

１２月１５日から1月１５日まで「冬の青少年を守る運動」が展開されます。この運動は鹿児島県青少年育成県民会議を中心に、各市町村などの関係機関、団体、それに各家庭、学校、地域など県民総ぐるみで推進しようとするものです。テーマは「家庭をあたたかく社会に思いやりを」

明るい家庭づくり

▷家庭そろって年末、年始を過ごそう

▷食生活に注意しスポーツ野外活動を盛んに行ない、体力づくりをしよう。

▷帰郷しない勤労青少年に暖かい家庭のふんいきを味あわせよう。

明るい社会環境づくり

□青少年に好ましくない書籍や映画は見せないようにし、有益なものをすすめる。

□地域ぐるみで俗悪な看板、ポスタースチールをなくそう。

□地域ぐるみで青少年の健全な交友関係を育てよう。

事故の防止

▷シンナーや接着剤、睡眠薬などを乱用しないようにする。

▷交通ルールを守り、事故をなくしよう。

▷旅行や登山などには、万全の準備と細心の注意をする。

非行の防止

○不健全な場所への出入りや夜間の一人歩きをさせないようにしよう。

○よその子にも目を向け、声をかけるようにする。

○未成年者は飲酒・喫煙をさせないようにする。

恵まれない人に愛の手を

▷不幸な子どもの相談相手になろう。

▷施設にいる子どもたちにも家庭的な暖かい正月を迎えさせよう。

▷ひとり暮しの老人の話し相手になろう。

▷お互い、いたわりの心で青少年によく接しよう。

婦人会だより

▽…十一月十二日全国身体障害者競技大会にわたくしども婦人会員四十人のマスゲーム参加がありました。残されたからだの機能を最大限にいかしての各種競技には五体満足のわれわれにとって胸を打つものがありました。障害者は同情よりも理解することがなによりだーということをつくづく考えました。

▽…十一月十三日出かせぎ者留守家族相談員の研修会が、国分の職業安定所で開かれました。留守家族相談員は、各校区の婦人会長がなっています。相談ごとは部落婦人会長を通じてでも結構です相談をもちこんでください。よろこんで相談をうけます。

▽…十一月十五日結婚相談員のご努力によって一組良縁がまとまり、町福祉センターで結婚式を挙行しました。町民各位のご利用をおねがいします。相談日は毎週月曜日、午後一時から。福祉センター老人室でお待ちしています。

▽…十一月二十四日生活学校対話集会。テーマを年末を控え、「町内買い物運動」とし、商工会がわスーパー代表者と学級生との会を持ち、事前活動としました。

計量測定の結果をもとにして町内業者の年末を前にして品質、計量に留意してもらうよう要望し、婦人会員へ商工会と婦人会とのタイアップのもとに特点をあたえてくれるよう切望しました。商工会がわとしても、その意を入れるよう話し合いをもつーということです。年末の買い物は、わたくしどもの町ですることを促進し、お金が加治木町に落ちるよう、みなさまもご協力ください。

▽…十一月二十九日　町婦人会校区婦人会長は、明正選挙推進委員として十二月十日衆議院議員選挙への啓発と明正選挙の推進をはかり、各候補者の選挙事務所四カ所を訪ずれ白バラをわたし、正しい選挙が行なわれるよう、お願いしました。各会員のかたがたの自覚を要望いたします。

正しい計量で売買

歳末正量取引運動

年末になると、買物の機会が多くなります。物を買うとき、値段や品質はよく吟味しますが、量目については案外、無頓着。せっかく安い買物をしたつもりが、量目不足では結局、高い買物をしたことになります。商店も消費者も、正しい計量の習慣をお互い日常の生活にいかしたいものです。

商店の心づかい

○　はかりは、検定証印のあるものを使う。

○　はかりは、使用前に水平と零点を正す。

○　はかりは、お客に目盛が見えるように置く。

○　少量の物を大きい目盛のはかりで計らない。

○　品物は、お客の目前で計る。

○　お客が計量に立ち合わないときは、伝票に量目を記入して渡す。

○　あらかじめ計って店頭に置いてある品物は、量目を明示した札を置くか、またはその袋などに量目を記入する。

○　袋詰め商品（密封商品）は、その内容量と詰込者の住所、氏名（または商店名）を表記する

○　はかりの目盛は真正面から正しく読み取り、正確に計る。

消費者の心がまえ

□　買い物にあたっては、はかりの目盛に注意する。

□　建て値の表示のある店をえらぶ。

□　風袋ごみの計量に注意する。

□　お金買い、姿買いをやめて目方買いをする。

□　袋詰め商品は、量目の表示のある物を求める。

□　計り試しを励行する。

□　計量についての意見や苦情はおっくうがらずに申し出る。

今月の納税　固定資産税　第四期分

検察審査員の補充員に内村・松尾さんの両人

このほど検察審査員の補充員の選定があり、昭和四十七年度第四群の検察審査員候補者のうちから次のかたが選ばれました。

○補充員　内村辰二（西別府）

〃　松尾　直（日木山）

検察審査会とは一選挙人名簿をもとにして、くじでえらばれた民間人の代表者十一人の検察審査員が、検察官のしごとのやりかたを審査するための制度です。鹿地裁検察審査会へのご相談は鹿地裁加治木支部内。電話②二六六六番

寒さに向う健康管理

冷えから起こる病気

■…広い部屋を暖めるということは費用もかかるが、できればコタツのような局部暖房ではなく、全身があたたまるというようにしたいものです。

■…とくにご婦人は「冷え」から、腹痛が起こったり、生理不順になったり、いわゆる婦人科的疾患にかかりやすいことです。また腎臓病や膀胱炎などもこれから要注意の病気。リウマチ、神経痛なども「冷え」で始まって悪化する典型的な病気といえます。ミニスタイルのカッコよさもよいですがこれからの季節は、とくに腰を冷やさない工夫が大切。

■…また、老人で血圧の高い人は「冷え」が禁物。「このくらいなら」とか「ちょっとだけだから」というのが、つまづくもとになることを改めて心にとめておきたいものです。「カゼは万病のもと…」であることは「ふつうカゼ」にしろインフルエンザにしろ、医学の進んだ今日でも、やはりいえることですカゼぐらいーとバカにしないで先手必勝、少しおかしいと思ったら①保温②安静③栄養の三原則を厳守するのがカゼ退治のコツと心得ましょう。

話題あれこれ

老人にキジやハト 猟友会の贈りもの

町猟友会（岩沢光男会長）が、ことしも町内のお年寄りたちにあげてくださいーと会員九十四人がそれぞれの猟場で仕とめたキジやカモ、ハトなど五十数羽を町福祉課へ届けました。

これらの獲物はさっそく新町の湯浅ハルさん（九五）ら九十歳以上のお年寄り二十三人に配られましたが、思わぬプレゼントを手にしたお年寄りは「まこてあいがてこっ。これで、また元気が出もんそ…」と大よろこび。ことしで六回を迎えた猟友会のプレゼント

県の特選児に 岡元祐樹ちゃん

県、秋の乳児いっせい健康審査で、町内端山の岡元三左次さんの二男、祐樹ちゃんが特選児に選ばれ第二位の鹿児島市長賞を授賞しました。さっそくお宅に伺うと、

「ほんとにびっくりしました。育児は、ひと様と同じに育てたつもりです。ただ上の二人の子を育てた経験をいかして食べ物、病気など同じ失敗がないように気を配りました。まぁ一つは運がよかったのでしょう」とお母さんのシゲ子さんは控え目でも、授賞のよろこびは、やはりかくしきれぬ様子

祐樹ちゃんはタマゴが大好き。いっぽう「おいた」の方も上の二人よりも活動が早いとか。

祐樹ちゃん入賞おめでとう。

十六年ぶりの帰郷 ロスから新福さん

「黒川ん山は、やはり大きかったな」このほど墓参りのため、十六年ぶりに加治木に帰郷した新福滋（旧姓黒木）さんは、こう話す

「わたしの加治木とイメージが大部こわされている。自転車であちこち回っても、すぐにわからない。加治木まんじゅうが重宝あたりでも売っていますネ。タマガッタ」と鹿児島弁をまぜて笑う。

現在、ロスアンゼルスで白人相手のガーデナーを自営、数多いなかでも信望も厚く大活躍。ロス在住の加治木会もあり、家族ぐるみのつき合いで励まし合っているとか。最後に「加治木の人も一回はロスに来なさい。身の回りのお世話をさせてもらいます」。

耐火建築の郷土館落成 贈り主の新川さん死去

旧図書館あとに建設中の郷土館が落成、さる十一月十四日に受納式と落成式が行なわれ寄贈者の加治木ガス会長の新川親義さん、（代理）から当町に贈られました。

新川さんは、加治木は古い歴史の町で教育にも町民あげて熱心なところで、耐火建築の郷土館をもつべきだと進言していたが、町の財政や町内に資料が散積して現状を知り、文化財保護と研究の場として利用してもらえたらーと町に寄付の申し出をされ、自ら建設を始めていたものです。

不幸なことに新川さんは病いに倒れ、完成した文化の殿堂も見ることなく十二月三日、亡くなられました。みなさんとともに同氏のごめい福を祈りたいものです。

明るく使われやすい局 郵便局の新局舎が落成

加治木郵便局の落成式が十二月一日、町福祉センターで開かれ、九州郵政局長（代理）や地元関係者など二百人が出席しました。

加治木郵便局は明治五年七月一日に郵便取扱所として加治木一番地に開局、同四十三年端山に移転昭和二十四年に普通郵便局昇格、現在の場所に移転、以来二十三年間町民に利用されましたが、年とともに狭隘になり、ようやくこのたびの新築移転となったものです

新局舎の落成は、同郵便局の開局百周年にもあたり同局員、町民とともによろこばしいことです。

「明るく使われやすい局」として設計された新局舎は、お客さまと親密に応待できるようオープンカウンターとなっています。

生活情報

"三の酉までさる年は火事が多い"

秋の全国火災予防運動が始まった十一月二十六日（日）は三の酉（とり）にあたります。

昔から、三の酉まである年は火事が多いとか言います。暖房器具も多くなるし、師走に向かって空気も乾燥してくるし、急激に火事が多くなります。

消防庁の発表によると、昨年の十一月の火災発生件数は四、五〇三件。十二月は六、五九〇件と一カ月のうちに約一・五倍のふえようです。そして火災による死者の数も、百十四人から百六十八人とこれも約一・五倍。

火災の原因については、いちばん多いのがタバコの火の不始末。居間といわず、寝室といわず、人間の移動につれて、これはどこでも火元になる危険性があります。寝タバコなど最も気をつけたいところで、朝、火のついた吸がらどとフトンを押入れにしまい、数時間後に火災が起きる例もかなりあると聞きますから、タバコ好きのかた、くれぐれも注意が肝要です。

暖房器具からの火災ももちろん多く、四十五年度の記録では、石油ストーブ一、七〇三件、ガス・ストーブ二六九件、まきストーブ二四六件、電気ストーブ二〇一件石炭ストーブ一二二件の順。

維持費がいちばん安上がりということで普及のいちじるしい石油ストーブの圧倒的な高い数値をみると、石油ストーブ派には大いに反省してもらいたいところ。

その他、意外に多いのが、煉炭こたつ六九一件、電気ごたつ六〇九件。

そこで消防庁では次のような注意書を発表しました。

暖房器具は安全な場所に

①倒れた時のことを考えて、出入口や階段の下などにおかぬこと

②カーテン、ふすま、障子など燃えやすいもののそばにおかないこと。ことにカーテンは風にあおられて危険。

③せまい室では歩行のじゃまにならぬよう。洋服のスソをひっかけたり、子どもの近づかぬところにおくこと。

正しい取扱いを

①火をつけたまま、動かさないこと。

②ガソリンなど引火性の強いものを近づけないように。

③石油ストーブの給油は、火を消してから。油がこぼれたらすぐふくこと。

④子どもの手の届かないよう、まわりをサクで囲うこと。

⑤使用後、外出前、就寝前、電気のコンセントをはずし、ガスの元栓をしめ、火の消えたことを確認すること。

■まずは火の用心を厳重に

水中の微生物研究が入賞

みごと知事賞の新蔵君

知事賞に新蔵くん

このほど第二十回理科に関する研究記録展に錦江小の新蔵信彦君（六年）の観察記録「水中の微生物の研究」がみごと入賞、知事賞を獲得しました。

これは付近の川や田、学校の池などの水を集めて、その中の微生物の種類やふえかたなどを三カ月間にわたって、くわしく観察記録したものです。新蔵君は、ことしの五月にも「メダカの研究」で入賞しており、学校ではとくに理科が得意、なかでも観察記録が大好きだという。

「観察は夏休みから十月初めまで続けた。水の中には思ったよりたくさんの微生物がいることがわかった。顕微鏡で見ながらノートに写生するとき、小さくてよく動くので、むずかしかった。二十種類ほど見つけた」といかにもうれしそうに話す。

県文化センターの展示会場に家族で行った際、両親に「よかったネ」といわれたとき、とってもうれしいでしたとテレながら笑う新蔵君です。

入賞おめでとう。

特選に池田智子さん

県児童・生徒の作文コンクール

県教育委員会主催の第十五回鹿児島県児童・生徒作文コンクールに加治木中の池田智子さんら五人が入賞しました。

▽特選

「灯のつどい」　池田智子（加中一年）

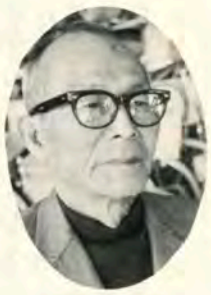
▽入選

「たかさき山のさる」　としみつみなこ（柁小二年）

「花の水かけ」　おぎさこひでのり（同二年）

「かたばみのふしぎ」　花牟礼　透（同四年）

「めざせ、まん画家」　小木原岳郎（同六年）



消防ひとすじ四十年

山元さんに〝秋の叙勲〟

十一月三日に発表された秋の叙勲で、町内錦江町の山元辰左衛門さん（七二）が、永年の消防関係に功労があったとして政府から勲六等旭日単光章が贈られました。

山元さんの消防歴は、大正十年に二十三歳で町消防組の消防手に入り、昭和十三年に小頭、同十四年に町警防団部長、同十八年分団長、終戦の翌年二十一年に副分団長、同二十二年に町消防団副団長同二十七年町消防団の団長をつとめ、昭和三十五年七月に退任したもので、実に四十年間を消防人ひとすじに過ごしてこられました。

山元さんに思い出ばなしを伺うと「こんな栄誉なことは全然、頭にもなかった。ただ、火事のない町にしたい―天災地災を最少限にとどめることに徹してきたまでのことで、重責をつとめ終えてホッとしていますが、今回このうえもない名誉ある叙勲をいただいて、感謝感激にたえません。これも団員や町民のみなさまがたのご協力があっての叙勲です」と前置きして、いまでも三つのことが頭に残っている。それは

①難儀をしたこと―昭和二十六年十月のルース台風で町民全体が戦災につぐ大なり小なりの災害をうけたが、消防団員は二の句を言わず、わが家を置いて統制ある行動でりっぱに復旧整理に出動従事してくれた。②うれしかったこと昭和二十七年に消防団主催で東京相撲「羽黒山一行」を招いて天神公園で興業、益金を消防車購入費として町に寄付、出ぞめ式の五日前に鹿児島市へ受取りに行った。③心残りすること―加治木町消防団が、日本消防協会からの表彰を一つも取れなかったことなどです

そばで内助の功をつとめた奥さんのフミさん（七一）も「四十年間、枕もとにハッピなどを準備してオチオチ寝むれないものでした主人がやめたとき何十年ぶりかにグッスリ寝込んだことを覚えています。叙勲をいただいて、もったいないことです」と、かつての消防夫婦は四十年間の労苦をともに回想していました。

最後に山元さんは「加治木もあと五年もすれば四、五階の建物が多くなる。ハシゴ車などの必要性もでてきますね。町民として自分の町は自分たちの手で守る（防災する）ことが大切なことです」と根っからの消防人・山元さんは叙勲のよろこびを結んでくれました

叙勲おめでとうございます。

石原さんら表彰

農業委員大会で

十一月十七日に町福祉センターで開かれた四十七年度の姶良地区農業委員研修大会の席上、永年勤続した農業委員や職員などの表彰がありました。

当町からは六期つとめた道風の石原操さんら三人が労をねぎらう表彰をうけました。

石原　操（六期・道　風）
城　正清（五期・上木田）
下楠園勲（四期・楠　園）

永年のご活躍ご苦労さまでした

表彰をうける石原・城・下楠園さん

田中さんらも表彰

県社会福祉大会で

十一月十七日、鹿児島市の県医師会館で開かれた県社会福祉大会でも福祉事業や共同募金活動に功績のあった個人や団体などの表彰があり、当町から次のかたがたが表彰されました。

▽知事表彰
田中　実（民生委員・端山）
平原好子（福祉施設・母子寮）
▽県共同募金会長、感謝
加治木町連合婦人会

―年末の郵便物―

□年末の小包の差出し
十二月十五日までに
（小包は、内容に適した材料で、しっかりと包装する）

□年賀状は遅くとも
十二月二十二日までに

□郵便物のあて名は
完全に、はっきりと

□郵便番号は
正しく、はっきりと

三頭とも上位入賞

県の畜産共進会

県畜産共進会は十二月六日から八日まで三日間、隼人町にある日当山中央家畜市場で開かれ、県内各地から百八十三頭が出品しました。当町から出品した三頭は、いずれも上位入賞となりました。

和牛二部
▽優等　鶴　春美（菖蒲谷）
種豚の部
▽一等　末吉君子（毛上）
乳牛の部
▽二等　緒方　功（長谷）

竜門句会

○暖かき日溜り得たり　枇杷の花　耕
○牛つなぐ原に降る陽や　熟柿おつ　青鹿
○碧水に渦生れ代り　落葉巻く　斗南
○紅葉のこぼれて水の　光り過ぐ　江南
○穂芒や秋の没陽（いりひ）を　躍らしめ　夏江
○紅葉狩り老いに優しき　人ばかり　愛子
○霧島を望む谷間や　穂絮しきり　透山

〃〃〃〃〃〃〃 香典返しを寄付

町社会福祉協議会へ

香典お返しのかわりに、ご寄付をいただきました。厚くお礼申しあげます。

金額　ご遺族　故人

一万円　菖蒲谷　蓬原春香（父金蔵）
五千円　伊部野　宮園ヒネ（夫静男）
五千円　迫下　宮園金蔵（父甚右ェ門）
三千円　上嶽　野畑タケ（夫精治）
三万円　錦江町　二渡久良（父光良）
五千円　里下　犬童正直（母キジェ）
一万円　柳田　東條淳子（夫清吾）
五千円　本町　長谷弘（母ケサ）
一万円　市野　鹿島香取（長男和一）
五千円　田中　岩崎重男（二男伸二）
五千円　口ノ町　諏訪アキ（夫栄蔵）
一万円　永原　石神アキ子（夫国義）
一万円　新中　小野田功（母キノ）
三千円　楠原　越口重雄（母ワカ）
五千円　垂ノ口　森山マサ（夫清志）
三千円　曲田　岩崎敦（母チョ）
五万円　萩原　岸野三茄衛（長男久）
二千円　萩原　鮫島カズ（同居人犬童シゲ）
五千円　朝日町　岩田三知夫（母ヒデ）
一万円　弥勒　有馬カズ（姉郡山イカ）
三千円　鶴原　向江敏子（夫静）
五千円　吉原　諏訪国義（母シナ）

育英奨学資金へ

五千円　伊部野　宮園ヒネ（夫静男）
五千円　吉原　諏訪国義（母シナ）

十一月二十一日までのご寄付を掲載しました。

慣れた火に新たな注意

随想 ㉗

皇太子がたに一時間もお話しを申し上げた私

曽木隆輝

皇太子さまがたが、屋久島にお着きになった十一月十二日の夜、同地の県行啓事務局から電話がかかってきた――明後十四日の午後、両殿下は溝辺空港へお着きのあと、つぎの東京行きの便まで一時間あまり時間があるため、私にお話しをせよとのことです――と。

狐につつまれたような話で、当日は加治木郷土館の落成式で繰り合わせがつきましょうか、お見送りには参上しますが…と答えた。なぜ私にきめられたのか、何をお話しするのか、町政のことか、何分間か全然見当がつかない。光栄ながら突然のことゆえ困って思案していると、新納県立図書館長から電話がきた。話はこうだ。

殿下が鹿児島市ご当着の翌夕、お宿の城山観光ホテルで北川・原口鹿大教授、芳玉竜高校長と新納館長などが両殿下に、鹿児島の青少年〃今昔気質〃といったようなお話しを申しあげた。その折、たまたま曽木が、さきの大戦中ドイツと日本との間で、鹿児島弁で秘密通話をした。それを曽木の同郷の後輩、伊丹という二世が、米国の諜報機関にいて、これをキャッチして煩悶（もん）した話がでた話はそれきりだったが、屋久島で殿下が曽木から、その話をきこうと仰せだされた由だ。溝辺で鹿児島の映画をお目にかける予定が急に変更された模様だが、恐らくそんなことをおききになるだろうから、ぜひ参上せよと。

十四日午後、郷土館の落成式をすませた私は、あたふたと空港へ行った。全日空機が三時五十分ごろ着いた。両殿下はご小憩の後、応接間で知事と新納館長が私をはさんでお待ちしている前におでましになりお着席になった。両はしにおつきの宮内庁の職員が着席。

私は両殿下のお疲れもなくお忙い各地のご旅行をお慶び申し上げ感謝し、先夜の話題のつづきや知事の郷里の出水兵児の話、青少年の社会教育のことなど世間ばなしや昔ばなしなどお話しした。両殿下はドイツ敗戦にあなたがたが気付いたのはいつごろでしたか、ドイツ国民がもう駄目だと思ったのは…。戦争末期の状況はどうでしたかとか、こまごまとお尋ねになる。

殿下と私たちの間の狭い応接台の中央にバラなど生花の鉢があるまわりにケーキとお茶が運ばれた殿下がたも召しあがりつつ、薩摩の青少年のことなど、つぎつぎにお問いかけになる。私は菓子をほうばった口で、帰朝の際ご真影を奉持していたおかげで朝鮮海峡で船にも乗れ、広島の原爆にも一日違いで助かったことなど、軽い話を申しあげた。

ソッと時計を見ると一時間近くたっていて、ご出発の時刻二十分前ぐらいだ。話の打ち切りようがないが、こりゃ大変と思って「つまらぬことを申し上げ、恐れ入りました」と結ぶと、両殿下は「ありがとう、からだに気をつけてください」とやさしくねぎらわれて次のお室に立たれた知事以下お別れに参入すると間もなく飛行機へお向いになった

私は、殿下はご出発直前、お疲れの時、一時間近くも学術や政治などのことでもない、まったくの世間ばなしを、いたらぬ身ながら独占してお話し申しあげたことを恐縮のいたりに思った。感激して飛行機が夕闇の空に消えて行くのをいつまでもジッと見守っていた。

同時に恐縮な表現だが、自分のせがれを見送るような親しみさえ覚えるのだった。